

お墓の市場データ調査(2025年7月時点)

お墓の形態と最近の選択傾向

消費者全国実態調査

鎌倉新書が運営するポータルサイト「いいお墓」では毎年、お墓を購入した人を対象に『お墓の消費者全国実態調査』を実施している。調査は該当年度中にサイト経由で墓地や納骨堂を購入した人を対象にインターネットで行われ、最新の第16回調査(2025年)では1,475人が回答しているprtimes.jp。近年の調査結果をまとめると次のようになる。

調査年度	有効回答数	主な調査結果(購入したお墓の種類)	平均購入価格	備考
2022	947件	購入したお墓の割合は樹木葬 41.5% 、一般墓 25.8% 、納骨堂 23.4% 。2018年には一般墓が半数(46.7%)を占めていたが、2022年は樹木葬が最多となり、一般墓はおよそ四分の一に減った。	一般墓 158.7万円 樹木葬 69.6万円 納骨堂 83.6万円	一般墓は複数世代で維持するため購入頻度が低い。樹木葬は跡継ぎ不要であり、1999年に登場してから新規開園数が増えている。納骨堂は室内型が多く、ICカードで遺骨を自動搬送するタイプも人気。
2023	660件	購入したお墓の種類は樹木葬 51.8% 、納骨堂 20.2% 、一般墓 19.1% 。調査開始以来初めて樹木葬の割合が過半数を超え、納骨堂が初めて一般墓を上回った。	一般墓 152.4万円 , 樹木葬 66.9万円 , 納骨堂 77.6万円	樹木葬・納骨堂を選ぶ理由は「承継者が不要」が多く、価格よりも跡継ぎ不要である点が選択理由となっている。自宅から墓地までの平均移動時間は29分で、2019年の約40分から短縮。
2025	1,475件	購入したお墓の種類は樹木葬 48.5% 、一般墓 17.0% 、納骨堂 16.1% 、合祀墓・合葬墓 14.6% 。樹木葬が半数近くを占め、次いで一般墓・納骨堂・合葬墓が続く。	一般墓 155.7万円 , 樹木葬 67.8万円 , 納骨堂 79.3万円	お墓購入時に重視した点は「お墓の種類」49.4%、「金額」41.9%、「継承者不要」36.7%。 39歳以下は金額を重視し、 65歳以上はアクセスの良さを優先する傾向が見られる。

傾向: 2010年頃は一般墓が90%前後だったと言われるが、2022年以降の調査では樹木葬が主流になっており、2023年には過半数を占めた。納骨堂も約20%で推移しており、従来の墓石型の一般墓は20%前後に減っている。消費者が跡継ぎ不要・管理が容易な供養形態を求めていることが背景と考えられる。

市民アンケート調査

自治体の市民意識調査でも、既存の墓地の形態と将来の希望が示されている。

- 神奈川県大和市の調査(2016年): 既存のお墓の形態は、従来型墓地(墓石型)82.3%、芝生墓地11.1%、納骨堂2.1%、樹木葬0.3%、**合葬墓1.2%**などで、従来型墓地が大半を占める。現在の墓を維持したいと答えた人は78.1%で、別の形態に変えたい人は3.4%にとどまったcity.yamato.lg.jp。
- 今後取得するお墓の希望では、従来型墓地希望者は20.6%、芝生墓地14.4%、樹木葬10.6%、納骨堂9.7%、合葬墓7.9%などで、従来型以外の形態を選びたい人が増えている。自治体に整備してほしい墓地の形としては、納骨堂37.6% 合葬墓32.9%**が多く、公園型墓地の整備や緑豊かな墓地が望まれているcity.yamato.lg.jp。
- 横浜市の市民アンケート(2022年)では、取得したいお墓の外観・収納方法として、芝生にプレートを置く芝生墓地が25.7%で最も多く、次いで従来型墓石墓地と樹木葬が各18.8%となった。遺骨の処置は納骨・埋葬が63.5%だが、散骨(海洋散骨など)が25.5%と一定の関心を集め、家に遺骨を置く手元供養も7.3%存在する。年代別に見ると、20代は従来型墓地を好む割合が高く、30代では樹木葬が人気で、40代以降は芝生墓地が主流である。また、20~30代では納骨堂(機械式含む)への関心が高いcity.yokohama.lg.jp。

現状のお墓数と他形態の割合

全国レベルの墓地・納骨堂数については厚生労働省の「衛生行政報告例」に掲載されているが、公的データへのアクセスが制限されているため、本報告では自治体調査と全国調査から推測される傾向をまとめる。

- 既存の墓地の大半は従来型墓地...大和市調査では82%が従来型墓地であり、芝生墓地11%、納骨堂や樹木葬は数%にとどまるcity.yamato.lg.jp。横浜市調査でも従来型墓地の取得希望は約19%で、芝生墓地と樹木葬がそれぞれ18~26%を占めるcity.yokohama.lg.jp。
- 新規購入における割合...鎌倉新書調査では2018年に一般墓が46.7%であったのが2025年には17%まで減少し、代わって樹木葬が50%前後まで増加している。納骨堂も16~23%を占め、合葬墓・合祀墓が約15%まで増えているprtimes.jp。したがって、新規購入段階では樹木葬や納骨堂など継承者不要の形態が主流である。
- 価格面...一般墓は150万円以上と高額だが、樹木葬や納骨堂は70~80万円程度で、維持管理費も少ない。消費者は価格よりも跡継ぎ不要や手間の少なさを重視する傾向が見られ

るprtimes.jp。

- 少子化・核家族化…横浜市調査では、20代・30代は納骨堂や樹木葬に関心を示し、39歳以下は金額を重視するprtimes.jp。子どもの人数が多いほど一般墓を選ぶ割合が高いが、子どもがいない層では樹木葬や納骨堂の選択率が高いprtimes.jp。少子化が進む中で、跡継ぎを前提としないお墓の需要が高まっていることが読み取れる。

年代別の選択傾向

年代別にみると、お墓の選択は次のような特徴がある。

年代	主な選択傾向	根拠・コメント
20代	従来型墓地を好む人が比較的多いが、2025年調査では金額を重視する人も多い city.yokohama.lg.jp/prtimes.jp 。機械式納骨堂など新しい施設への関心が高い	経済的負担や将来の継承を意識し、一般墓よりも価格・アクセスを重視する傾向がある。
30代	樹木葬（樹木や草花で飾った墓所）への支持が高く、跡継ぎ不要・管理が簡単な点を重視している。 同時に費用も気にする世代で、一般墓よりも価格の安い選択肢を選ぶ人が多い。	子育て世代であり、家計とのバランスや跡継ぎ問題を考慮していると考えられる。
40代～60代	芝生墓地（プレート型）が人気で、アクセスの良さや園内の雰囲気重視する city.yokohama.lg.jp/prtimes.jp 。	両親の墓や自分たちの墓を検討する世代で、訪れやすさや維持管理の負担を重視する。
65歳以上	従来型墓地よりもアクセスの良いエリアを最重視する prtimes.jp 。園内の雰囲気や管理状況への関心も高い prtimes.jp	自身で墓参りをするを考え、近さや管理体制を重視する。

まとめ

日本の墓地市場は、少子高齢化や核家族化を背景に、従来の墓石型墓地から継承者不要の形態へと急速に移行している。地方自治体の調査では既存のお墓の大半は従来型墓地であるもののcity.yamato.lg.jp、新規購入では樹木葬が半数前後、納骨堂が約20%と主流になり、一般墓は20%以下まで減少している。墓地の購入時には「お墓の種類」「金額」「継承者不要」が重要視され、若年層ほど金額やアクセスを重視し、年齢が上がるほどアクセスや管理状況を重視する傾向があるprtimes.jp。